

# 国土交通省における ジェンダー主流化の取組

---

第3回推進本部資料  
2026年3月18日  
総合政策局

ジェンダー主流化は政府や民間の幅広い分野で推進するべき取組とされており、国土交通省の所管分野においても多様な課題が存在。

- 「ジェンダー主流化を推進し、政府機関、民間企業や若者を含めた市民社会など全てのステークホルダーが連携して一層の取組を進めていく必要がある。」（第6次男女共同参画基本計画、R8/3/13閣議決定）

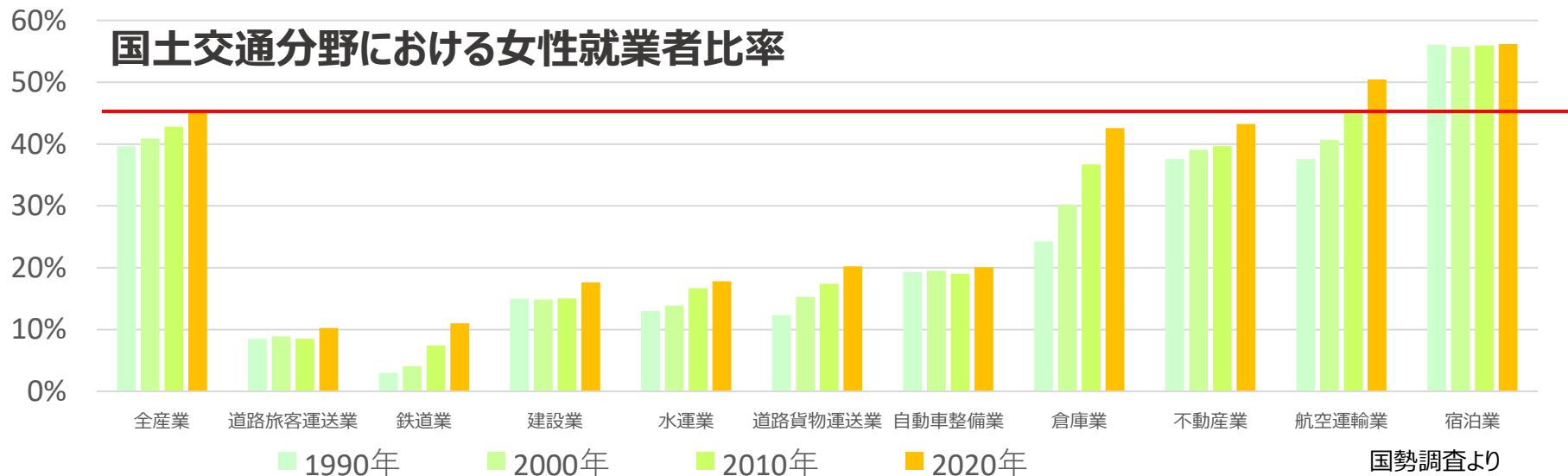
### 利用者の視点

性別による違いが見落とされると、一部の人に使いにくさが生じる。

- 車の衝突試験では、男性の体を基準とするダミー人形が使用されていた。  
（日本では、2024年度から運転席に女性のダミー人形を導入済）
- 暗いバス停などは、利用に際して特に女性は不安を感じやすい。
- 駅などにおいて女性トイレの行列が長い。

### 担い手の視点

国土交通分野の女性就業者比率は上昇傾向にあるが、低水準な産業も多い。



ジェンダー主流化推進の一環として、官民のメンバーで構成される「国土交通ジェンダーネットワーク会議」を開催。

### ○ジェンダーネットワーク会議とは

- ・国土交通分野の**様々な業界**における女性活躍やDEI推進等の担当者が集まり、国交省職員も参加する**ネットワーク形成の場**である。
- ・専門家による講演等や、他組織との意見交換を行うことで、**外部の取組をそれぞれの組織に持ち帰ることができる。**

### ○設立の背景と目的

- ・女性活躍等は業種を超えた共通課題であり、**民間と国交省職員がネットワークを形成して相互に連携を強化しつつ、ジェンダー主流化を国土交通分野に定着させるために官民一体で長期的視野で取り組む。**



第2回の様子

### ○メンバー

- ・民間企業等：20名程度（不動産、建設、公園、上下水道、道路、住宅、バス、タクシー、自動車整備、港湾、航空、観光等）
- ・国土交通省：10名程度（各部局からジェンダー主流化推進を担当する職員等）

### ○開催実績と今後の予定

第1回	第2回	第3回	第4回
令和7年10月7日	令和8年1月22日	4月予定	6月予定

ジェンダー主流化の知識習得及び意識啓発を目的として、地方局を含む国土交通省職員を対象に、令和8年1月より、オンデマンド形式による研修を開始。

## 研修の目的

- **ジェンダー主流化に関する正しい知識**を習得し、すべての職員が共通認識をもつこと。
- 国土交通行政において、**なぜジェンダー主流化が必要か**理解すること。
- ジェンダー主流化を効果的に進めるために**何が必要か**を把握すること。



## 研修のゴール

あらゆる政策の点検・計画において、**ジェンダー主流化**を取り入れる手法や事例を理解する。

### ○コンテンツ

用語、データ、定義・意義・効果、等

### ○受講者について

ジェンダー施策の窓口を中心に受講を案内。

2026/3/17現在、動画再生数:約750回、ミニテスト受講者：350名

※一部外局等は再生数に含まず。

### ○今後の受講について

職員は、イントラ（トップ>業務ナレッジ>ジェンダー）にも掲載し、引き続き受講が可能。

## 全国の地方局においても、ジェンダー主流化に関する取組を推進。

### 定期的な会議等の場を利用したジェンダー主流化の情報発信

- 地方局の幹部等が出席する既存の会議等の機会を活用して、国土交通省におけるジェンダー主流化の意義や取組状況を発信。3月17日時点の発信件数は全国で**137件**になる。

### 取組事例・状況の情報収集

- 建設や交通分野における女性活躍等の事例について収集し、事例集としてとりまとめた。ジェンダー主流化に関するポータルサイトに掲載。（総合政策局共生社会政策課のコーナーに設置）

[https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/barrierfree/sosei\\_barrierfree\\_tk\\_000355.html](https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/barrierfree/sosei_barrierfree_tk_000355.html)



### 各地域でのコミュニティづくり

- 地方局でもセミナーや座談会等を開催。
- 地域の実情に即したジェンダー課題の把握と改善を図るため、意見交換等を通じ、学び合いや好事例の横展開を行う仕組みを構築する。



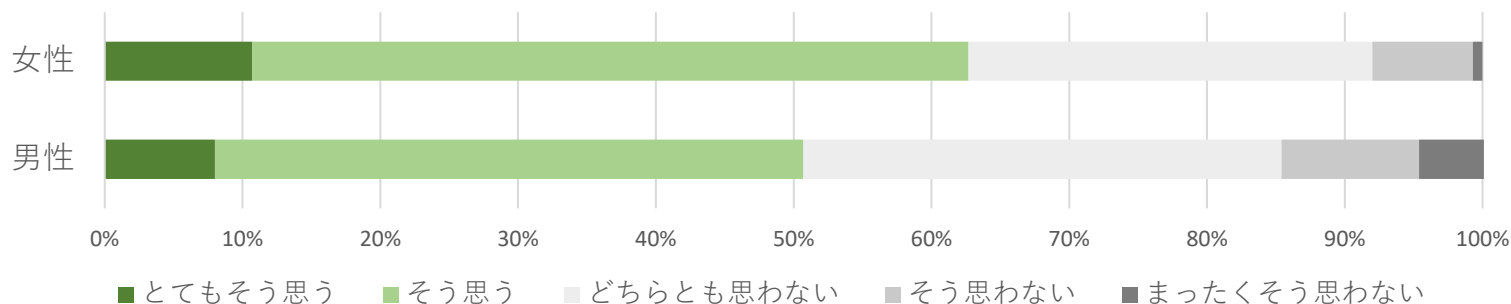
関東運輸局及び関東整備局で開催 (R8/2)

# 調査事例：バス停の照明に関する社会実験を実施（R8.2）

- 本部設置に先立って実施した国土交通省「若手・中堅女性職員による懇談会」で寄せられた意見では、暗いバス停での不安等が挙げられた。
- 国内外の事例を踏まえ、ジェンダー主流化の観点の改善例として、バス停に照明を設置した際の利用者の安心感への影響を検証する社会実験を行った（東京都大田区）。

## 事前のWEBアンケート（n：男女150名ずつ）

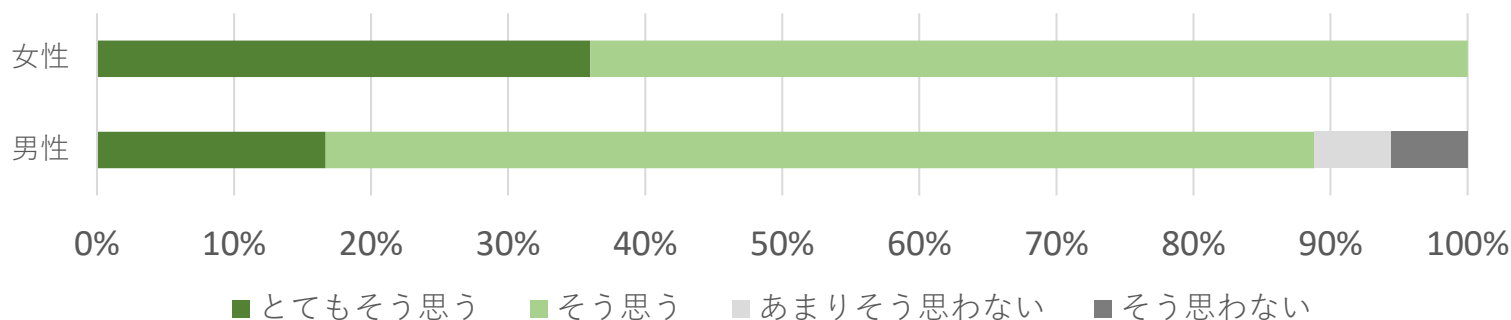
Q.バス停に照明が設置・強化されれば、夜間の安心感が高まると思えますか。



## 実験期間中の現地アンケート（n：男性28名、女性34名）

（期間限定（2週間）で照明を設置し、そのうち平日3日間でアンケートを収集）

Q.照明設置で安心感が高まったと感じますか。



照明を設置したバス停の様子